

2015年3月期 第2四半期
決算説明会

2014年10月24日

株式会社トーメンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

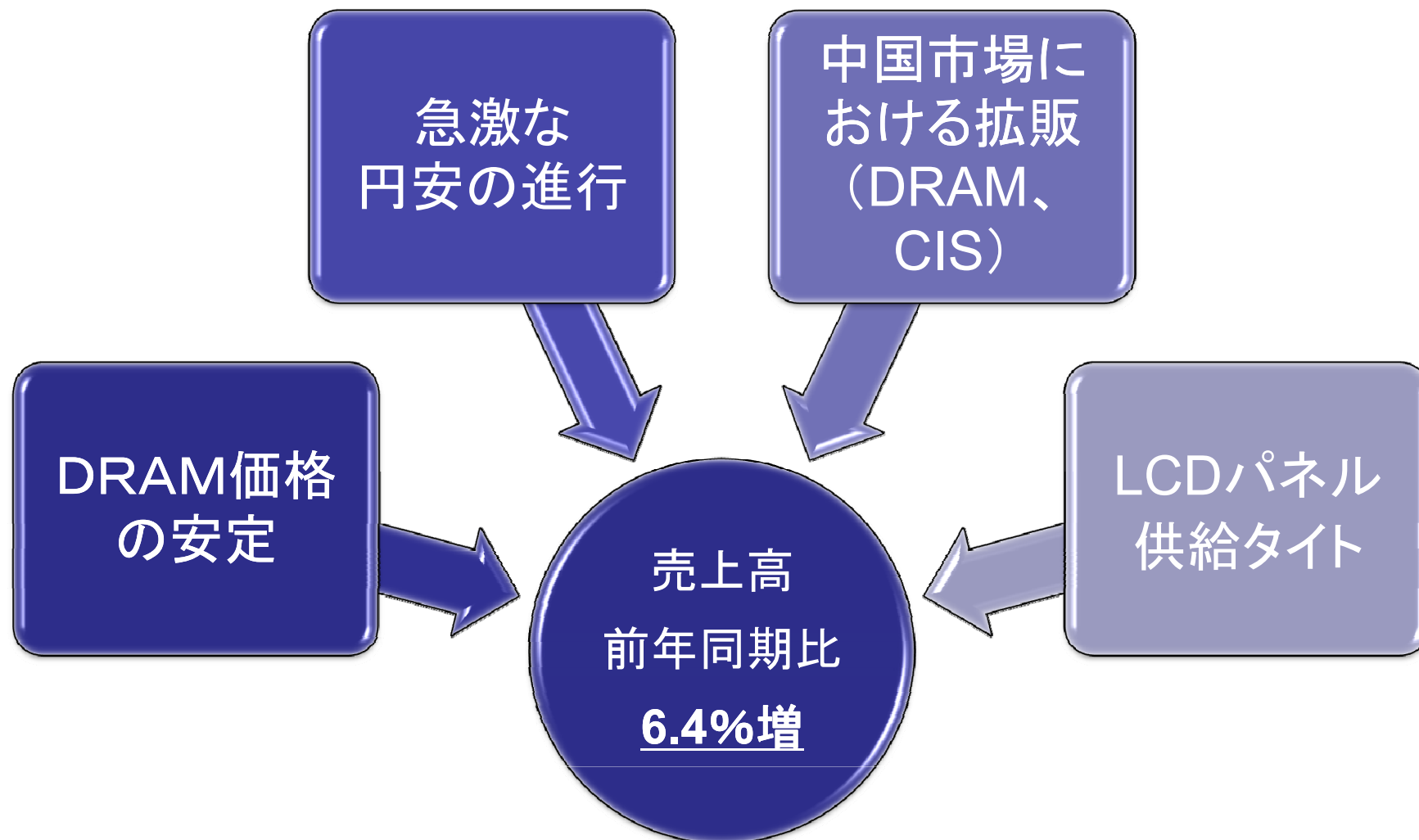
I

第2四半期 決算概況

II

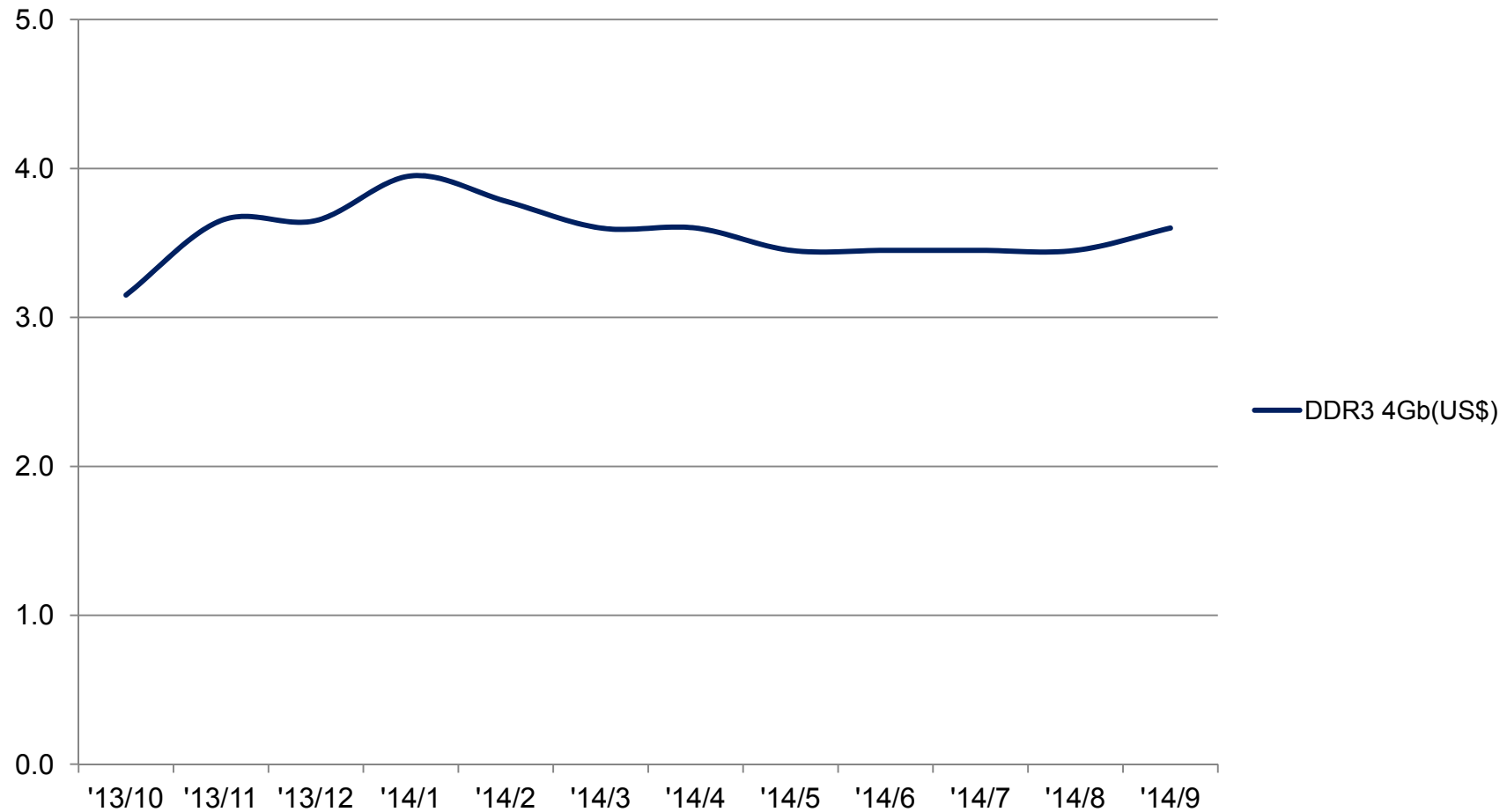
2014年度 見通し及び取り組み

第2四半期決算トピック



DRAM価格推移('13年10月~'14年9月)

PC用DRAM価格が高水準で推移。



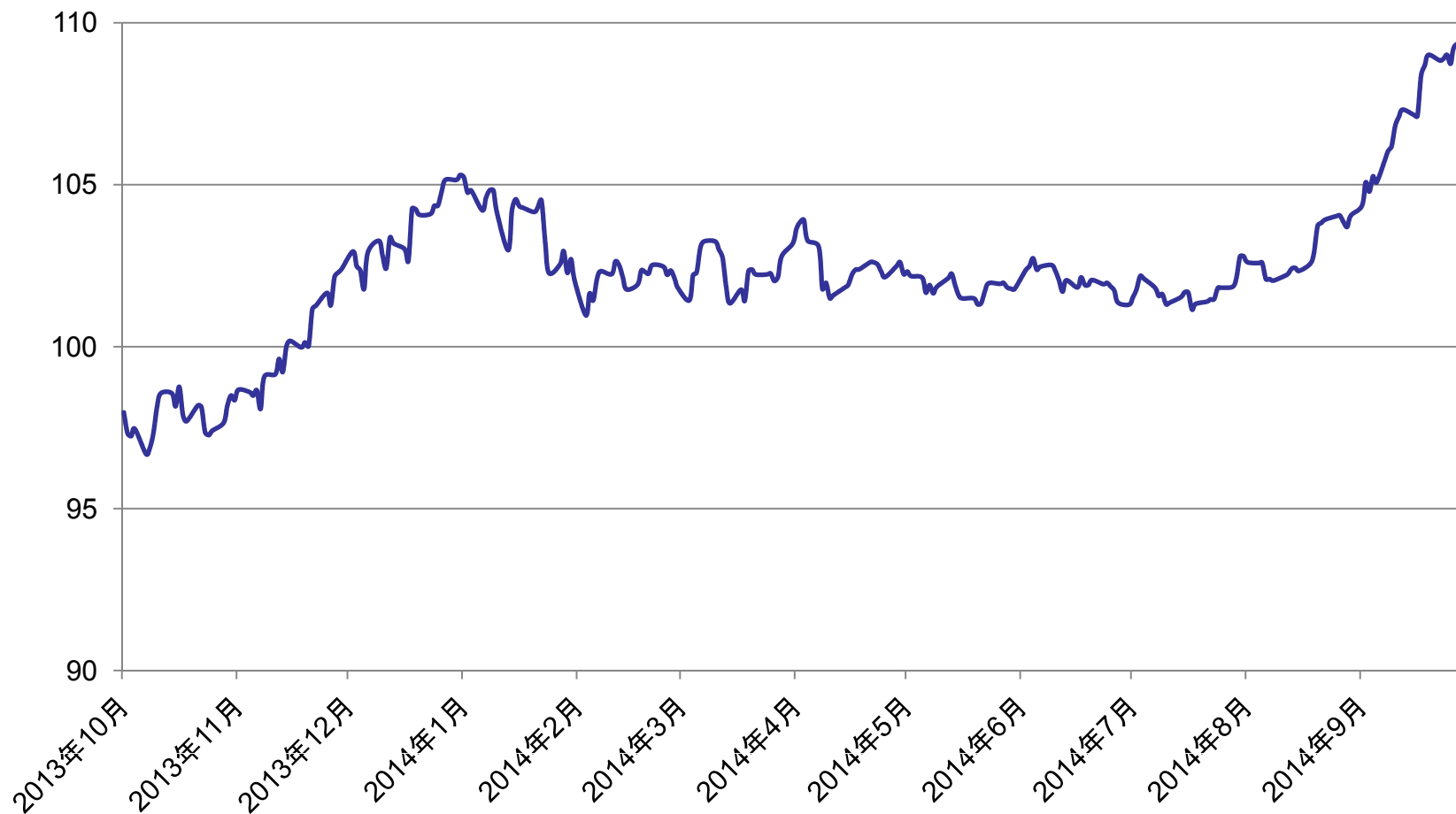
(出所)各種資料をもとに当社で作成

為替レート推移（'13年10月1日～'14年9月30日）



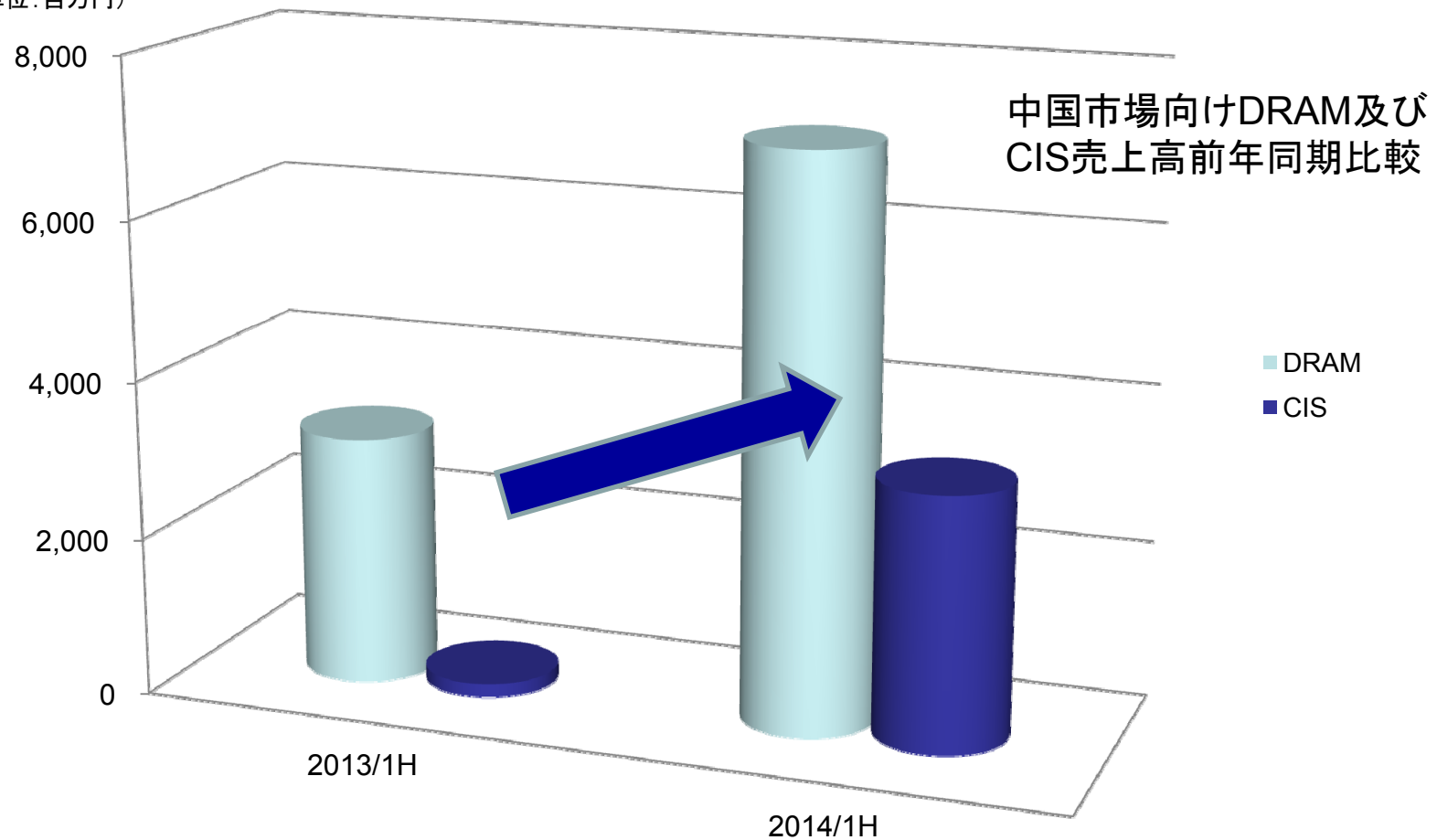
9月から急激な円安が進行

(アメリカ ドル / 日本 円)



中国市場でDRAM、CIS (CMOSイメージセンサー) を拡販

(単位: 百万円)



連結業績サマリー



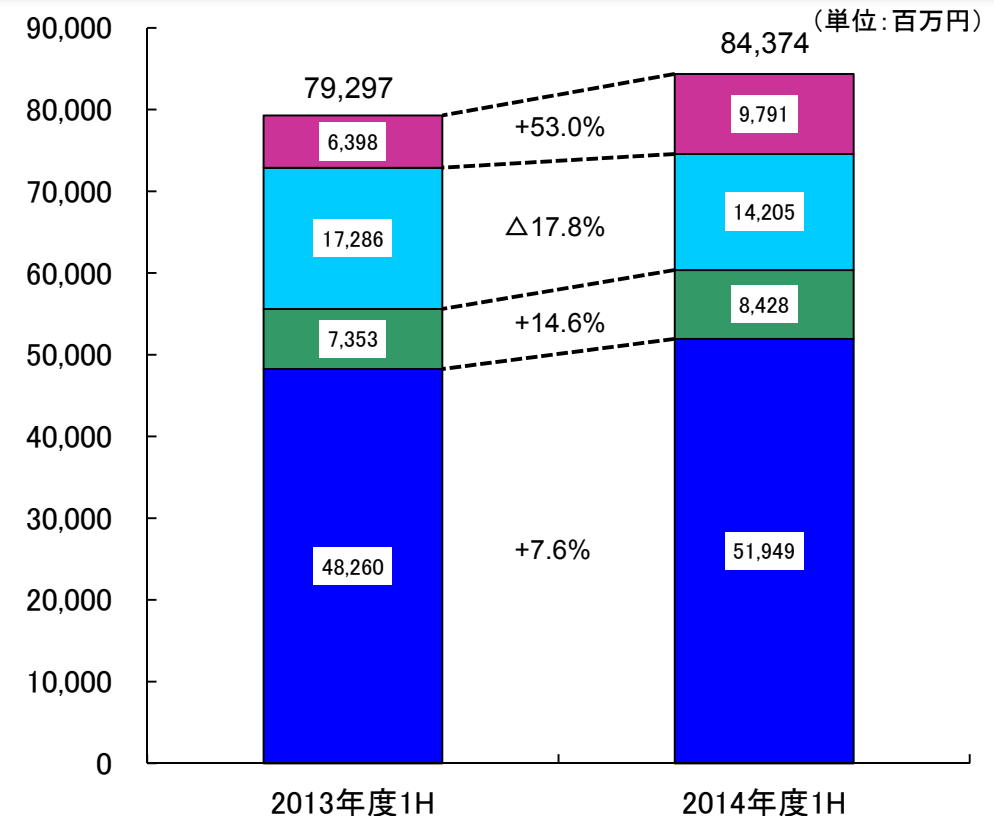
(単位:百万円)

	2013年度 1H	2014年度 1H	増減額	増減比
売上高	79,297	84,374	+5,076	+6.4%
売上総利益	2,738	2,208	△530	△19.4%
営業利益	1,590	1,224	△365	△23.0%
経常利益	1,296	1,064	△232	△17.9%
当期純利益	703	677	△25	△3.6%
総資産	49,811	51,700	—	—
純資産	23,050	23,919	—	—
1株当たり純資産(円)	3,385.35	3,507.14	—	—
自己資本比率	46.2%	46.1%	—	—

人件費等の販管費は減少したが、価格競争の激化と、9月以降の急激な円安による為替差損のため、利益は前年同期比でマイナス。

商品別 売上高推移

(単位:百万円)	2013年度 1H	2014年度 1H	増減率 対前年比
メモリー	48,260	51,949	+7.6%
システム LSI	7,353	8,428	+14.6%
液晶	17,286	14,205	△17.8%
その他	6,398	9,791	+53.0%
合計	79,297	84,374	+6.4%



■ メモリー ■

○PC及び携帯電話向けDRAMの販売が好調
▼価格競争激化によりFLASH減少

■ システムLSI ■

○中国市場で携帯電話用カメラ向けにCIS好調
▼タブレット需要沈静によりDDIが伸び悩む

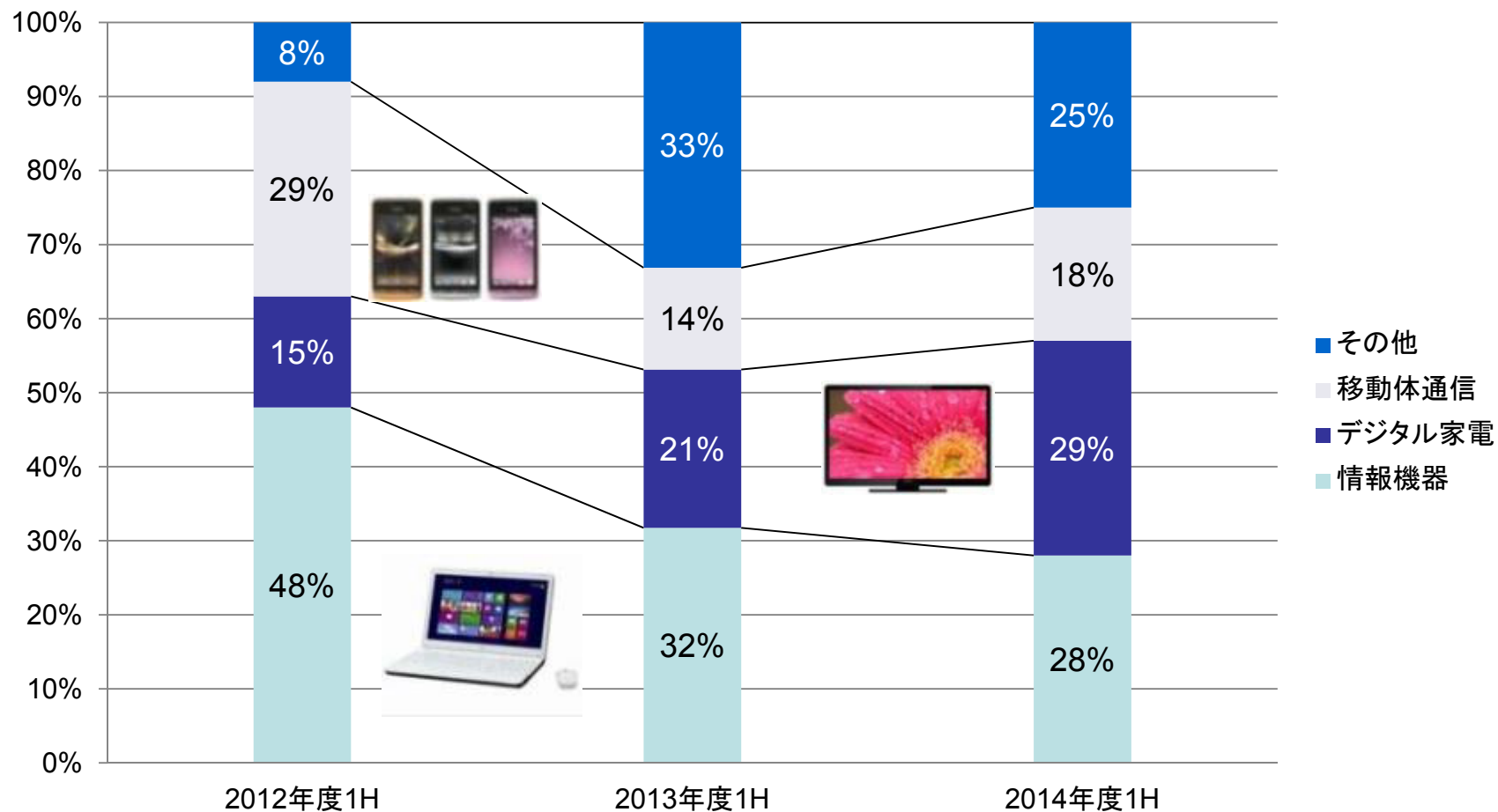
■ 液晶 ■

○LCDパネルの供給がタイトに
▼モニター、サイネージともに伸びず

■ その他 ■

○4Kテレビ等によりバックライト用LEDを拡販
▼日系スマートフォンの不振により有機ELマイナス

用途別売上高の構成推移



その他	工作機械、カーナビ、アミューズメント、電子辞書、SDカード等
移動体通信	携帯電話、スマートフォン等
デジタル家電	BD、デジカメ、テレビ等
情報機器	PC、タブレット、サーバー等関連機器

本日の内容



I

第2四半期 決算概況

II

2014年度 見通し及び取り組み

2014年度後半の環境予想



Positive

- ・電子部品全体の需要は比較的堅調
- ・DRAMメーカーの生産増は見込みにくく、PC需要が落ち込む一方、タイト感は継続
- ・コンテンツの拡充に伴い、4Kテレビの普及が加速
- ・x86サーバーは出荷額、台数共に堅調、サーバー市場をけん引



Negative

- ・消費税増税による消費意欲の低下、買い控え傾向
- ・スマートフォン市場における、ミッドレンジ製品が縮小。ローエンド(中国メーカー中心)とハイエンド製品(Apple等)の2極化が加速化。日系メーカーが更に厳しい状況へ
- ・法人におけるWindows XPからの買い替え需要が沈静化
- ・一眼含め、デジタルカメラの販売不振

2014年度計画



	13年度実績	14年度計画	増減	前期比	(参考)2Q時点の 進捗率
売上高	174,654	175,000	345	0.2%	48.2%
営業利益	2,364	1,800	△564	△23.9%	68.0%
経常利益	1,867	1,700	△167	△9.0%	62.6%
当期純利益	1,051	1,150	98	9.4%	58.9%
1株当たり 当期純利益(円)	154.61	169.08	—	—	—
1株当たり 配当金(円)	40	40	0	—	—

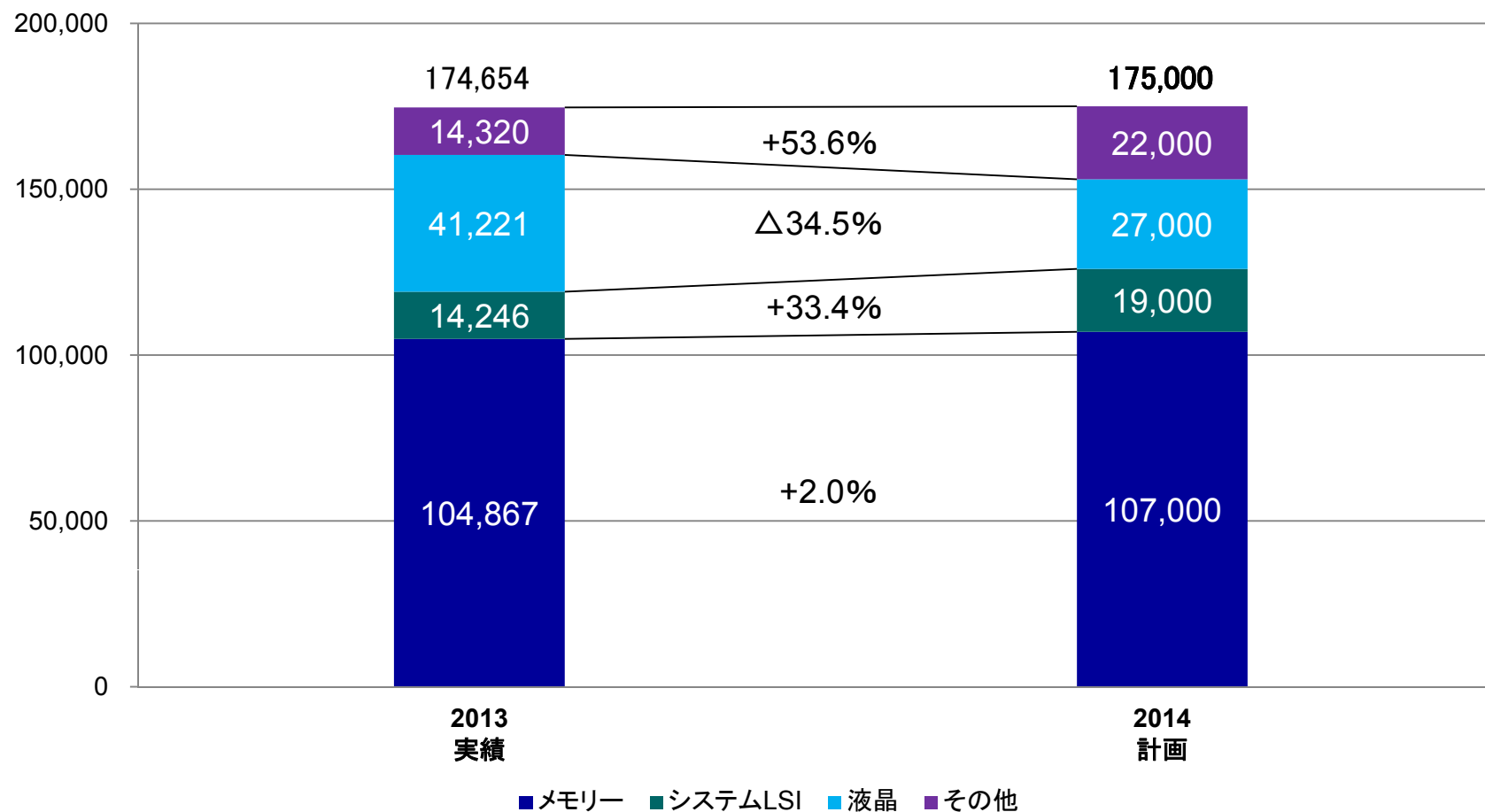
2014年4月23日発表の業績予想を維持

【2014年度 利益計画の補足説明】

1. 日系ビジネスの伸び悩みと、中国ビジネス拡大による、価格競争の更なる激化。
2. 取扱商材及び中国ビジネスの拡大によるプロダクトミックスの変化。

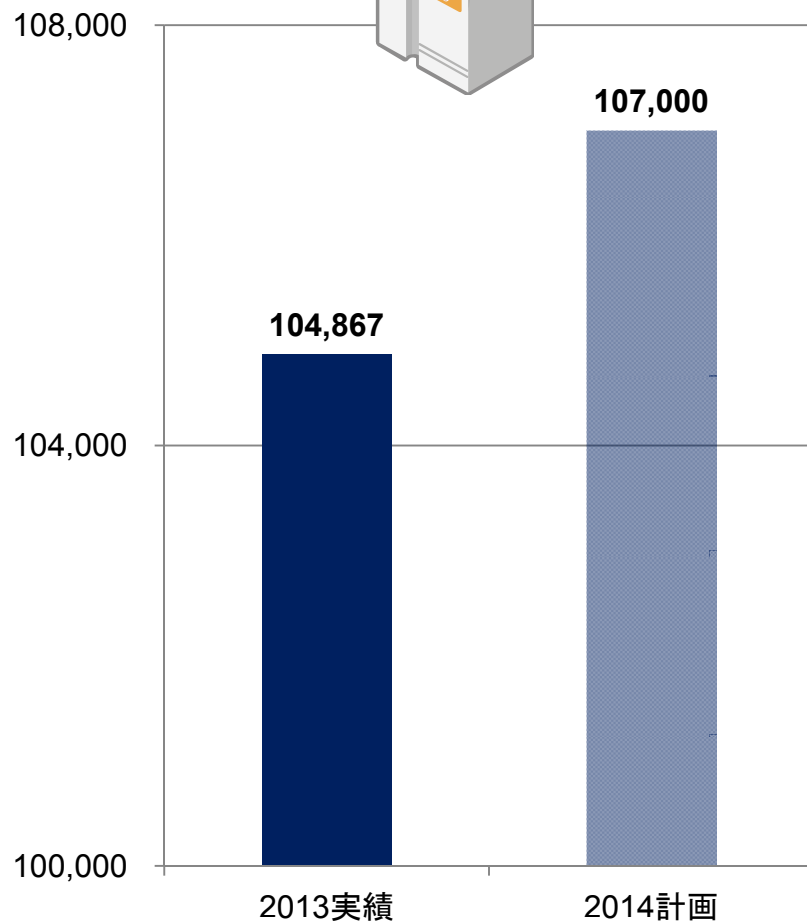
LCDの落ち込みに対し、CMOSイメージセンサー、LED及び有機ELが伸長

(単位:百万円)



メモリー分野

(単位: 百万円)



[環境・見通し]

- PC用DRAM需要は落ち込むものの、サーバー用DRAMは堅調
- DRAMメーカーの供給不足状態継続
- NAND価格も堅調に推移

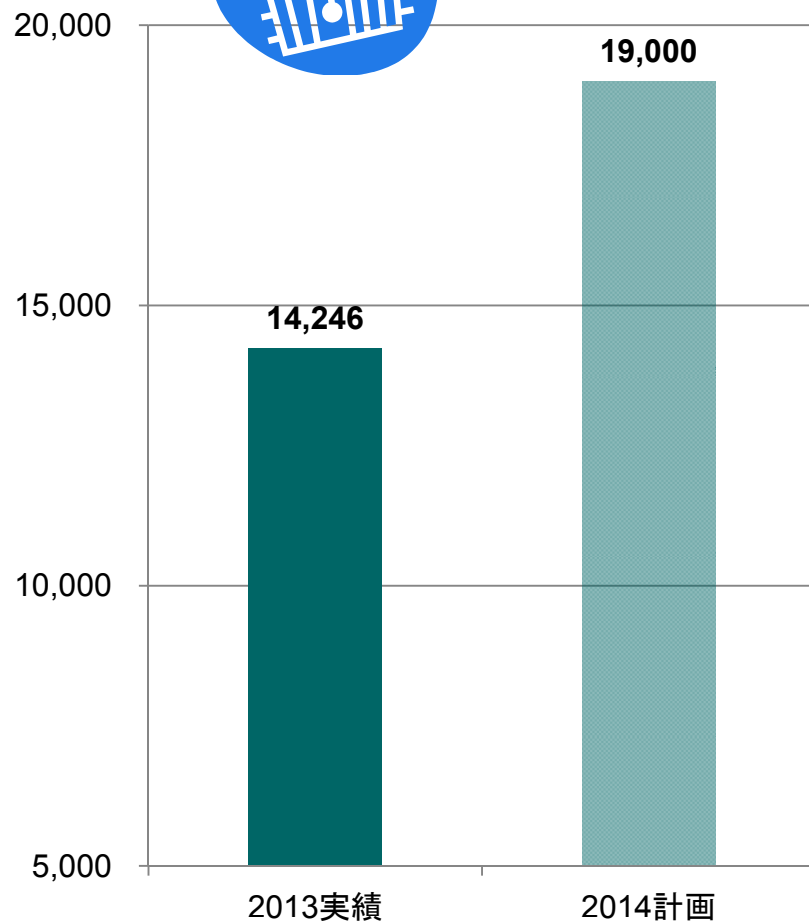
[当社の取り組み]

- スマートフォン用モバイルDRAMのシェア拡大
- 中国市場での拡販継続
- SSDをPC、サーバー、ストレージ向けにプロモーション



システムLSI分野

(単位: 百万円)



[環境・見通し]

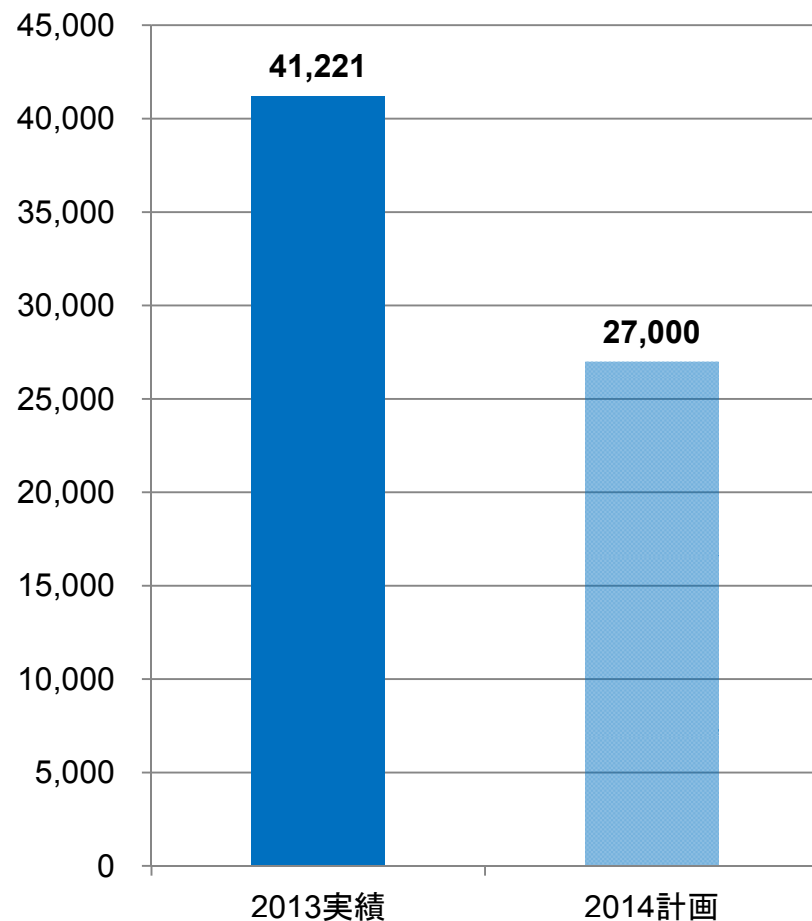
- スマートフォンの画面大型化、ハイブリッド型PCの普及等により、タブレット需要は鈍化
- スマートフォンはハイエンド(高付加価値化)、ローエンド(低価格化)の二極化へ

[当社の取り組み]

- 中国市場携帯端末向けにCMOSイメージセンサーの取扱開始・新規受注
- 大型液晶(4Kテレビ)及び中小型(モバイル)向けにDDIのデザインイン活動強化

LCD分野


(単位:百万円)



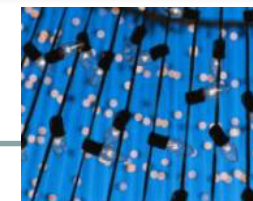
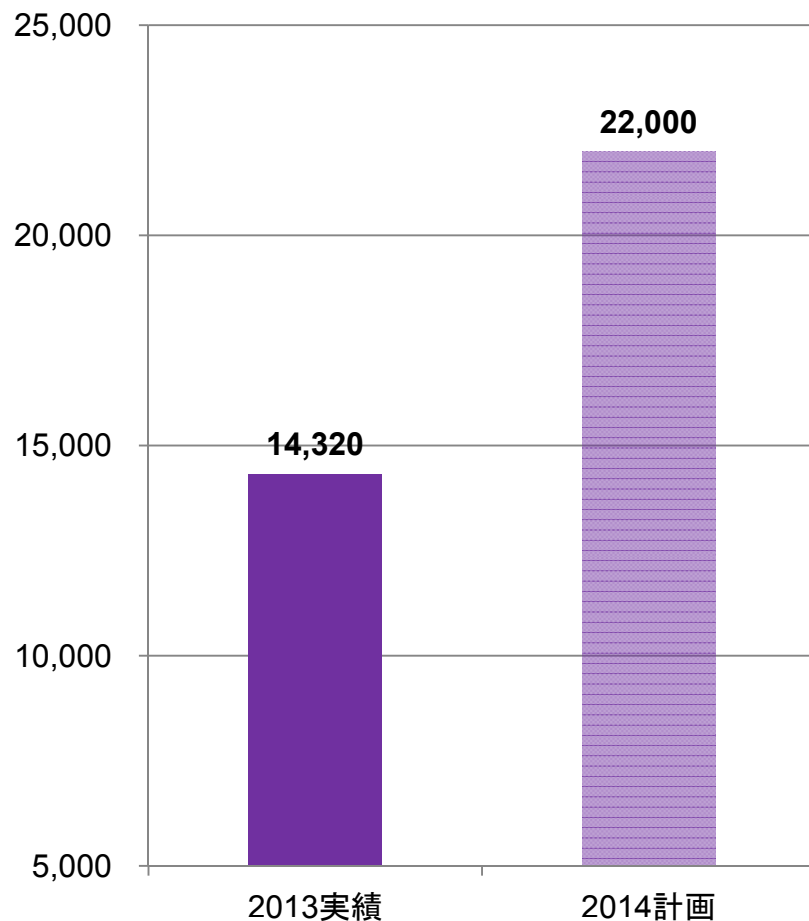
[環境・見通し]

- 大型液晶パネルはタイトな需給バランスが継続
- 中小型液晶パネルは中国市場の減速等から軟調傾向に

[当社の取り組み]

- デジタルサイネージ及びモニター市場への拡販に注力
 - テレビ用パネル確保による、シェアの維持・拡大に努める
- 

(単位: 百万円)



[環境・見通し]

- テレビ市場の底打ち感及び4Kテレビの認知度の高まりにより、テレビバックライト用LED需要が伸びる
- Apple社と中国スマートフォンメーカーの狭間で日系スマートフォンメーカーは今まで以上に苦戦

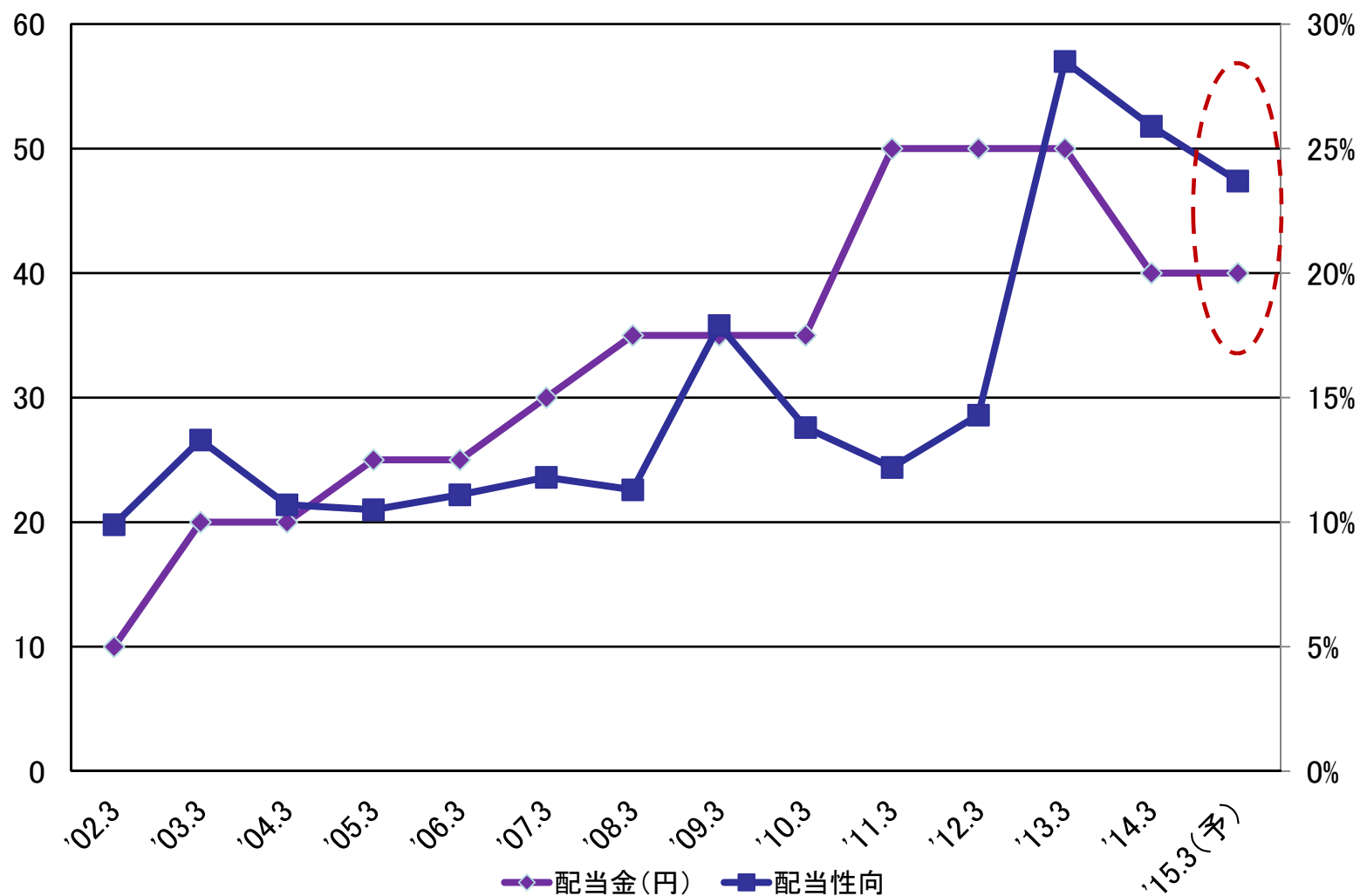
[当社の取り組み]

- 4Kテレビ向けにバックライト用LEDを拡販
- タブレット向け有機ELの売上を拡大及び新規モデルへのアプローチ継続
- 中国市場での新規開拓の継続

配当計画(1株当たり)

連結配当性向は20~30%を目処。

(単位:円)



ご清聴ありがとうございました

